

農業経営の多角化と農村資源マネジメントに関する研究及び普及

大江 靖雄 氏 (59歳)
千葉大学大学院 園芸学研究科
教授



1 業績の概要

背景

農産物の需要低迷や農村活性化の観点から、農村資源を活用した新たなサービス提供による経営多角化が、日本のみならず世界的にも共通の課題として模索されてきた。しかし、これまで農業経営の多角化に関する研究は、事例分析に終始することが少なくなく、その発信も国内のみで、成果の普遍化には至っていなかった。そこで、国際的に普遍性の高い経済学的フレームワークの構築と計量経済学により農村資源マネジメントに関する実証研究成果の国際発信が急務となっていた。

研究内容・成果

- (1) 我が国のみならず、20年にわたるイタリアでの国際的な視野での研究活動の結果、世界で初めて農村ツーリズムの特徴をミクロ経済学により理論的に解明し、農業経営活動として明確に位置づけた。
- (2) 具体的には、農業の多面的機能を所得化する農村ツーリズム活動と従来の農産物との相違点と特徴を経済学的に明確化して、農村ツーリズム活動振興に関わる特有の課題を解明した。
- (3) 段階的農村プロダクト・イノベーション仮説を普遍性の高いミクロ経済学により理論化し(図1)、多面的機能の所得化を段階的に実現するプロセスを計量経済学的手法で実証的に解明した(図2)。
- (4) これらの先駆的解明の研究成果を、国際学会100回以上の報告や国際トップ学術誌への掲載など海外に積極的に発信し、我が国の農村資源利用による多角化の取り組みの先進性と普遍性の普及に努めた。
- (5) 我が国の農業経営分析の海外発信はとても少なく、この点で我が国の農村ツーリズムの取り組みの先進性と一般性を普遍化した業績はさきわめて大きい。これらの独創的な業績により、国際的視点から農村多角化の政策的根拠を提供できる農村資源マネジメント科学の基礎形成に向けて大きく貢献した。

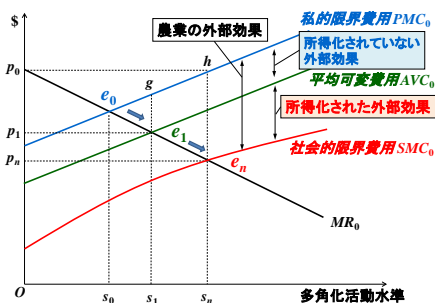


図1 段階的プロダクト・イノベーション生成のプロセス

初期 e_0 : 無料サービス提供段階から
中期 e_1 : 部分的所得化段階を経て
発展期 e_n : 完全所得化達成段階に段階的に到達

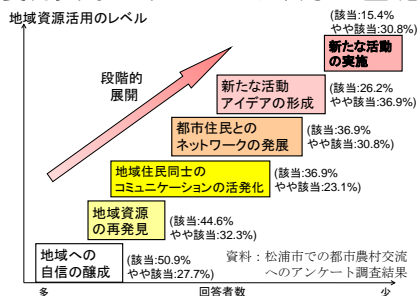


図2 農村資源活用による都市農村交流活動の段階的展開(実証例)

都市農村活動の発展段階プロセスを、実証的に解明した。初期段階は、「地域の自信を醸成」から、「内外の人的ネットワークの形成拡大」を経て、新たなアイデアの実施段階に至ることを解明。



写真: 千葉県グリーン・ブルーツーリズム担い手養成塾長として、過去10年間継続して成果の活用と普及により人材育成(修了生とともに本人中央)

普及状況

本研究成果は、グリーンツーリズムの担い手育成を図る千葉県の助成事業として実施されてきた千葉県グリーン・ブルーツーリズム担い手養成塾で過去10年間にわたり、活用されてきた(写真)。さらに、国内では、千葉大学はもとより、名古屋大学、東京農工大学で非常勤講師として、その成果を大学院及び学部の教育活動に適用した。海外においては、その成果の独創性と普遍性から国際学会や大学セミナーの招待講演者として英国、米国、イタリア、フランス、スペイン、クロアチア、ブラジル、タイにおいてその成果の普及を行い、第一人者としてその研究成果は国内のみならず、国際的にも高い評価を受けている。

2 評価のポイント

従来、事例分析に終始していた農業経営多角化と農村資源マネジメントに関する研究において、ミクロ経済学による理論的モデルの開発と計量経済学による統計的な手法による分析で、未開拓な新たな領域を切り開き、高い国際的評価を得て多角化政策の理論的根拠を明確にした点で優れた研究であると高く評価した。